

令和8年2月27日（金）
GIGA StuDX推進チーム プチ学習会

【研修パッケージ】 提案！深い学びに向かう授業づくり

#授業改善 #校内研修

研修パッケージ 一覧

・解説動画&資料

デジタル学習基盤における「深い学び」の可能性(例)

INPUT OUTPUT

1. 人材情報 2. 進捗診断 3. 出力機会 4. プロセス

このデジタル学習基盤が重要で

・関係資料

小学校3年生

GIGA×深い学びの協創者 クラウド活用のポイント

子どもにとってのクラウド活用の代表的なメリット

活用ポイント	参考資料等
...	...

参考資料等

・ワークシート

〇〇校第〇学年 教科：〇〇〇〇 「〇〇〇〇〇〇」

■単元の目標

■資質・能力が育成され「深い学び」に向かおうとしている子供の姿 (第〇小単元)

【学習活動の場面】

■GIGA端末とクラウド環境の効果的な活用と指導上の工夫

① *****

【主体的・対話的で深い学びを実現する具体的な学習活動】

【導入】

【展開】

【終末】

② *****

③ *****

【資質・能力が育成され深い学びに向かおうとしている子供の姿】
【主体的・対話的で深い学びに向かおうとしている指導の例】

【学校名】 ***** 立 ***** 学校 (***** 県)

研修パッケージの掲載場所



スタディーエクス スタイル

StuDX Style

デジタル学習基盤で加速する深い学び

メルマガ新規登録

TOPICS (改訂関係他)

校務DX

プチ学習会はコチラ

お困り相談はコチラ

研修支援はコチラ

新着情報・コンテンツ

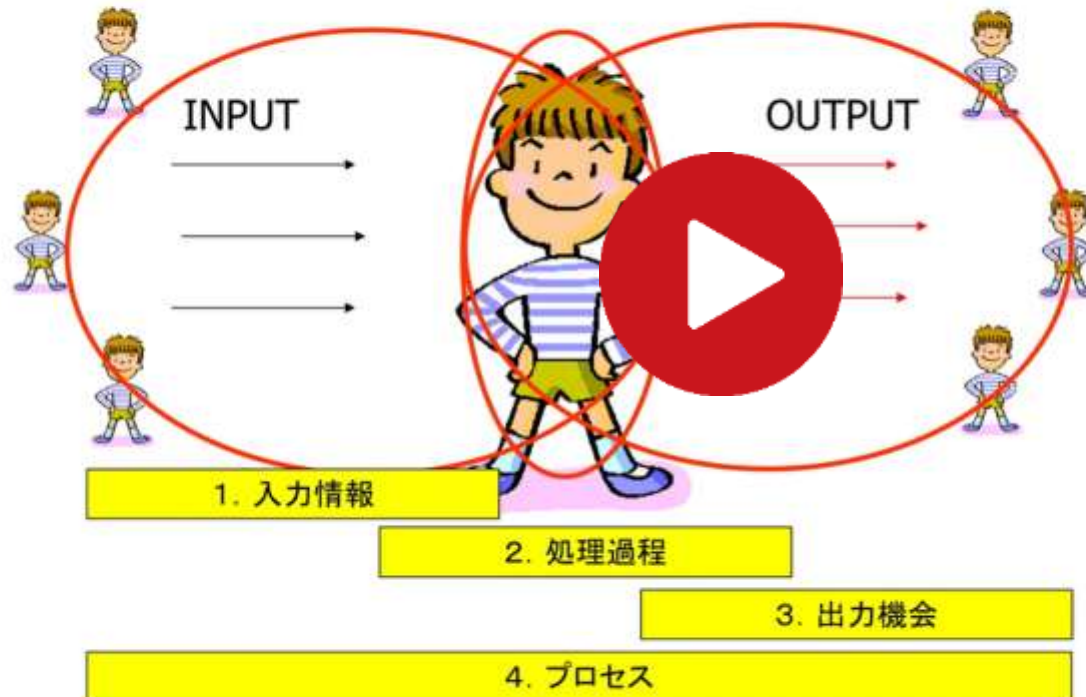
○新着情報○

- 2026.3.10 > (プチ学習会) プチ学習会 (第4回 3/16,3/18開催回のチラシ) を追加
- 2026.3.10 > (特集) アップデート主体性 × DX × 対話 (和歌山県海南市立亀川小学校)
- 2026.3.10 > (TOPICS) 最新TOPICS! を更新
- 2026.3.4 > (特集) つながりを大切に、自ら学ぶ生徒の育成～ (三重県鈴鹿市立天栄中学校)
- 2026.2.17 > (特集) 「認め合い学び合い高め合い」で実現する教育DX (愛知県一宮市立朝日西小学校)
- 2026.2.6 > (特集) 授業改革と校務DXの実践～まずは使ってみよう!～ (新潟県立国際情報高等学校)
- 2026.2.3 > (プチ学習会) プチ学習会 (第4回関係資料) を追加
- 2026.2.3 > (特集) 「学びの成長システム」の確立を目指して～今を見つめ、未来を見つめ、必要なことを積み重ねること～ (熊本県玉草市立本浦苗小学校)

① 解説動画 & 資料の紹介・視聴

田村学主任視学官による解説動画、提示資料
(特設サイト「StuDX Style」に掲載)

デジタル学習基盤における「深い学び」の可能性(例)



このデジタル学習基盤が重要で

②「深い学び」の実現に向けて

教師はどんな指導や
支援をするのか

デジタル学習基盤を
どう活用するのか



各教科等における「深い学び」の指導例

スタディーエックス スタイル

StuDX Style

デジタル学習基盤で加速する深い学び

小学校



中学校



高等学校



特別支援教育



小学校第3学年
算数

クラウドに投稿された、リットルマス図を使った友達の考えを参考にして、自分の考えを更新する。

GIGA×深い学びの指導例 クラウド活用のポイント

クラウドを活用した指導例

学習場面（活動）の例

①既習で使った重要な知識をクラウドに投稿しておき、いつでも見られるようにしておく

・リットルマス図、数直線、単位変換といった3種類のワークシートをクラウド上にも用意しておき、子供たちが学習しやすくしておく

②他の子供のワークシートをクラウドで参照することで、計算の仕方を説明するときに参考にできるようにする

③子供が何人で学んでいるのか、どの考え方をしているのかをクラウドで選択させることで、教師は子供が適切な学びを進めているか確認することができる

(例) 自分の考えを振り返り、それを文章に表すことで自分の考え方を更新していく

※ 事例をもとに追記

見通しを確認 ①

既習事項の確認 ②

教材の提供 ③

学習内容の共有 ④・⑤

学習過程の共有 ④・⑤

学習の見取り ④

適時適切な指導 ④

学習内容の確認 ⑥

学習方法の確認 ⑥

気づきの促し ⑥

学びをつなぐ（精緻化） ⑦

子供は、

自分のタイミングでいつでもアクセスできる

必要な時に確認できる

自分で選択できる

困った時にすぐにアクセスできるので安心

同じ、または異なる考えの人を見つけて学ぶ

友達の学習過程からヒントを得る

自分のペースで学習が進められる

先生に教えてもらう順番待ちが減る

省内に友達の学びをプラス

学習が定着する

学びの内容が深まる

次の学習への見通しが持てる

子供にとってのクラウド活用の代表的なメリット

①めあて・指示・資料の共有

・指示や資料をいつでもどこでも参照できる。

②既習事項の共有

・これまでの自分の学びや友だちのも含む振り返りを確認できる。
・前時の学びを確認することにによって既習事項とつながりやすくなる。

③教材配付

・瞬時に必要な教材を配布できる。
・クラウドにあるので、なくす心配がない。
・動画・写真・音声などの教材も配付できる。

④学習内容・学習成果の蓄積・共有

・自分の考えを写真や動画なども用いながら整理できる。
・複写や削除、入れ替えが容易にできる。

⑤他者参照

・問題解決中に友達の学習内容や考え方を参照できる。
・完成物ではなく、学んでいる過程を共有することで学び方が意識できる。

⑥振り返りの記述・共有

・文章量も確認しながら、振り返りが記述できる。
・友だちの振り返りも確認できる。

⑦学びをつなぐ

・②⑥が前単元への参照になると、単元を超えた学びのつながりが生じ、単元を超えた当該教科の見方・考え方を意識しやすくなる。

子供にとっての クラウド活用の代表的なメリット

①めあて・指示・資料の共有

- ・指示や資料をいつでもどこでも参照できる。

②既習事項の共有

- ・これまでの自分の学びや友だちのも含む振り返りを確認できる。
- ・前時の学びを確認することによって既習事項とつながりやすくなる。

③教材配付

- ・瞬時に必要な教材を配布できる。
- ・クラウドにあるので、なくす心配がない。
- ・動画・写真・音声などの教材も配付できる。

④学習内容・学習成果の蓄積・共有

- ・自分の考えを写真や動画なども用いながら整理できる。
- ・複写や削除、入れ替えが容易にできる。

⑤他者参照

- ・問題解決中に友達学習内容や考え方を参照できる。
- ・完成物ではなく、学んでいる過程を共有することで学び方が意識できる。

⑥振り返りの記述・共有

- ・文章量も確認しながら、振り返りが記述できる。
- ・友だちの振り返りも確認できる。

⑦学びをつなぐ

- ・②⑥が前単元への参照になると、単元を超えた学びのつながりが生じ、単元を超えた当該教科の見方・考え方を意識しやすくなる。

GIGA×深い学びの指導例クラウド活用のポイント

クラウドを活用した指導例

学習場面（活動）の例

- ①既習で使った重要な知識をクラウドに投稿しておき、いつでも見られるようにしておく
- リットルマス図、数直線、単位変換といった3種類のワークシートをクラウド上にも用意しておき、子供たちが学習しやすくしておく

見通しを確認 ①

既習事項の確認 ②

教材の提供 ③

子供は、

自分のタイミングでいつでもアクセスできる

必要な時に確認できる

自分で選択できる

困った時にすぐにアクセスできるので安心

- ②他の子供のワークシートをクラウドで参照することで、計算の仕方を説明するときに参考にできるようにする

学習内容の共有 ④・⑤

学習過程の共有 ④・⑤

同じ、または異なる考えの人を見つけて学ぶ

友達の学習過程からヒントを得る

- ③子供が何人で学んでいるのか、どの考え方をしているのかをクラウドで選択させることで、教師は子供が適切な学びを進めているか確認することができる

学習の見取り ④

適時適切な指導 ④

自分のペースで学習が進められる

先生に教えてもらう順番待ちが減る

- (例) 自分の考えを振り返り、それを文章に表すことで自らの考え方を更新していく
※ 事例をもとに追記

学習内容の確認 ⑥

学習方法の確認 ⑥

気づきの促し ⑥

内省に友達の学びをプラス

学習が定着する

学びの内容が深まる

学びをつなぐ（精緻化） ⑦

次の学習への見通しが持てる

子供にとってのクラウド活用の代表的なメリット

①めあて・指示・資料の共有

- 指示や資料をいつでもどこでも参照できる。

②既習事項の共有

- これまでの自分の学びや友だちのも含む振り返りを確認できる。
- 前時の学びを確認することにによって既習事項とつながりやすくなる。

③教材配付

- 瞬時に必要な教材を配布できる。
- クラウドにあるので、なくす心配がない。
- 動画・写真・音声などの教材も配付できる。

④学習内容・学習成果の蓄積・共有

- 自分の考えを写真や動画なども用いながら整理できる。
- 複写や削除、入れ替えが容易にできる。

⑤他者参照

- 問題解決中に友達の学習内容や考え方を参照できる。
- 完成物ではなく、学んでいる過程を共有することで学び方が意識できる。

⑥振り返りの記述・共有

- 文章量も確認しながら、振り返りが記述できる。
- 友だちの振り返りも確認できる。

⑦学びをつなぐ

- ②⑥が前単元への参照になると、単元を超えた学びのつながりが生じ、単元を超えた当該教科の見方・考え方を意識しやすくなる。

GIGA×深い学びの指導例クラウド活用のポイント

クラウドを活用した指導例

学習場面（活動）の例

- ①既習で使った重要な知識をクラウドに投稿しておき、いつでも見られるようにしておく
 - ・リットルマス図、数直線、単位変換といった3種類のワークシートをクラウド上にも用意しておき、子供たちが学習しやすくしておく

見直し確認 ①

既習事項の確認 ②

教材の提供 ③

- ②他の子供のワークシートをクラウドで参照することで、計算の仕方を説明するときに参考にできるようにする
- ③子供が何人で学んでいるのか、どの考え方をしているのかをクラウドで選択させることで、教師は子供が適切な学びを進めているか確認することができる

学習内容の共有 ④・⑤

学習過程の共有 ④・⑤

学習の見取り ④

適時適切な指導 ④

子供は、

自分のタイミングでいつでもアクセスできる

必要な時に確認できる

自分で選択できる

困った時にすぐにアクセスできるので安心

同じ、または異なる考えの人を見つけて学ぶ

友達の学習過程からヒントを得る

自分のペースで学習が進められる

先生に教えてもらう順番待ちが減る

(例) 自分の考えを振り返り、それを文章に表すことで自らの考え方を更新していく
※ 事例をもとに追記

学習内容の確認 ⑥

学習方法の確認 ⑥

気づきの促し ⑥

学びをつなぐ（精緻化） ⑦

内省に友達の学びをプラス

学習が定着する

学びの内容が深まる

次の学習への見通しが持てる

子供にとってのクラウド活用の代表的なメリット

①めあて・指示・資料の共有

- ・指示や資料をいつでもどこでも参照できる。

②既習事項の共有

- ・これまでの自分の学びや友だちのも含む振り返りを確認できる。
- ・前時の学びを確認することにによって既習事項とつながりやすくなる。

③教材配付

- ・瞬時に必要な教材を配布できる。
- ・クラウドにあるので、なくす心配がない。
- ・動画・写真・音声などの教材も配付できる。

④学習内容・学習成果の蓄積・共有

- ・自分の考えを写真や動画なども用いながら整理できる。
- ・複写や削除、入れ替えが容易にできる。

⑤他者参照

- ・問題解決中に友達の学習内容や考え方を参照できる。
- ・完成物ではなく、学んでいる過程を共有することで学び方が意識できる。

⑥振り返りの記述・共有

- ・文章量も確認しながら、振り返りが記述できる。
- ・友だちの振り返りも確認できる。

⑦学びをつなぐ

- ・②⑥が前単元への参照になると、単元を超えた学びのつながりが生じ、単元を超えた当該教科の見方・考え方を意識しやすくなる。

中学校第1学年
社会科（地理的分野）



グループで共同編集を行うとともに、クラウド上で共有した他のグループの意見を参考にし、考えを深める。

【協力】深谷市立岡部中学校

GIGA×深い学びの指導例クラウド活用のポイント

クラウド情報を手掛かりに教師が実施している指導の例

学習場面（活動）の例

① これまでに学んだオーストラリアの地理的事象をRESASのデータや地理院地図の写真を端末上で確認する。

* グループで共同編集を行う。個々の作業に終始することのないよう、事前によく相談してから、作業に入る。

② Padletでの共同編集を対話を通して行う。

* 一度つなげた矢印は、取り消すこともできる。対話の中で吟味し、試行錯誤しながら、学びを整理することで、知識を構造化していくことが可能になる。

③ まとめを記述する際、他のグループの意見もクラウド上で確認し、比べ合うことで内容を吟味する。

必要に応じて、他のグループと交流を行う。

* グループの中で話し合うだけでなく、他の班の意見を参考にしたり、記述の視点のずれがないかを確認し、グループとしての記述を完成させる。

既習事項の確認

①・②

学習内容の確認

①

学習方法の確認

①

学習の見取り

④

適時適切な指導

④

情報（学び）をつなぐ

⑥

気づきの促し

⑥

学びをつなぐ
（精緻化）

⑦

子供は、

過去の学習を振りかえる

これから学習内容を確認する

自分のタイミングでいつでもアクセスできる

自分が必要なタイミングで確認できる

やり直せるから、自分の意見が言いやすい

友達の学習過程からヒントを得る

友達の考えが気づきになる

先生に教えてもらう順番待ちが減る

自省に友達の学びをプラス

友達の学びが気づきになる

学びの内容が深まる

次の学習への見通しが持てる

子供にとってのクラウド活用の代表的なメリット

① めあて・指示・資料の共有

・ 指示や資料をいつでもどこでも参照できる。

② 既習事項の共有

・ これまでの自分の学びや友だちのも含む振り返りを確認できる。
・ 前時の学びを確認することによって既習事項とつながりやすくなる。

③ 教材配付

・ 瞬時に必要な教材を配付できる。
・ クラウドにあるので、なくす心配がない。
・ 動画・写真・音声などの教材も配付できる。

④ 学習内容・学習成果の蓄積・共有

・ 自分の考えを写真や動画なども用いながら整理できる。
・ 複写や削除、入れ替えが容易にできる。

⑤ 他者参照

・ 問題解決中に友達の学習内容や考え方を参照できる。
・ 完成物ではなく、学んでいる過程を共有することで学び方が意識できる。

⑥ 振り返りの記述・共有

・ 文章量も確認しながら、振り返りが記述できる。
・ 友だちの振り返りも確認できる。

⑦ 学びをつなぐ

・ ②⑥が前単元への参照になると、単元を超えた学びのつながりが生じ、単元を超えた当該教科の見方・考え方を意識しやすくなる。

GIGA×深い学びの指導例クラウド活用のポイント

クラウド情報を手掛かりに教師が実施している指導の例

学習場面（活動）の例

① これまでに学んだオーストラリアの地理的事象をRESASのデータや地理院地図の写真を端末上で確認する。
* グループで共同編集を行う。個々の作業に終始することのないよう、事前によく相談してから、作業に入る。

② Padletでの共同編集を対話を通して行う。
* 一度つなげた矢印は、取り消すこともできる。対話の中で吟味し、試行錯誤しながら、学びを整理することで、知識を構造化していくことが可能になる。

③ まとめを記述する際、他のグループの意見もクラウド上で確認し、比べ合うことで内容を吟味する。
必要に応じて、他のグループと交流を行う。
* グループの中で話し合うだけでなく、他の班の意見を参考にしたり、記述の視点のずれがないかを確認し、グループとしての記述を完成させる。

子供は、

既習事項の確認

①・②

過去の学習を振りかえる

学習内容の確認

①

これから学習内容を確認する

学習方法の確認

①

自分のタイミングでいつでもアクセスできる

自分が必要なタイミングで確認できる

学習の見取り

④

やり直せるから、自分の意見が言いやすい

適時適切な指導

④

友達の学習過程からヒントを得る

友達の考えが気づきになる

先生に教えてもらう順番待ちが減る

情報（学び）をつなぐ

⑥

内省に友達の学びをプラス

気づきの促し

⑥

友達の学びが気づきになる

学びをつなぐ（精緻化）

⑦

学びの内容が深まる

次の学習への見通しが持てる

子供にとってのクラウド活用の代表的なメリット

① めあて・指示・資料の共有

・ 指示や資料をいつでもどこでも参照できる。

② 既習事項の共有

・ これまでの自分の学びや友だちのも含む振り返りを確認できる。
・ 前時の学びを確認することによって既習事項とつながりやすくなる。

③ 教材配付

・ 瞬時に必要な教材を配付できる。
・ クラウドにあるので、なくす心配がない。
・ 動画・写真・音声などの教材も配付できる。

④ 学習内容・学習成果の蓄積・共有

・ 自分の考えを写真や動画なども用いながら整理できる。
・ 複写や削除、入れ替えが容易にできる。

⑤ 他者参照

・ 問題解決中に友達の学習内容や考え方を参照できる。
・ 完成物ではなく、学んでいる過程を共有することで学び方が意識できる。

⑥ 振り返りの記述・共有

・ 文章量も確認しながら、振り返りが記述できる。
・ 友だちの振り返りも確認できる。

⑦ 学びをつなぐ

・ ②⑥が前単元への参照になると、単元を超えた学びのつながりが生じ、単元を超えた当該教科の見方・考え方を意識しやすくなる。

GIGA×深い学びの指導例クラウド活用のポイント

子供にとってのクラウド活用の代表的なメリット

①めあて・指示・資料の共有

- ・指示や資料をいつでもどこでも参照できる。

②既習事項の共有

- ・これまでの自分の学びや友だちのも含む振り返り確認できる。
- ・前時の学びを確認することにによって既習事項とつながりやすくなる。

③教材配付

- ・瞬時に必要な教材を配布できる。
- ・クラウドにあるので、なくす心配がない。
- ・動画・写真・音声などの教材も配付できる。

④学習内容・学習成果の蓄積・共有

- ・自分の考えを写真や動画なども用いながら整理できる。
- ・複写や削除、入れ替えが容易にできる。

⑤他者参照

- ・問題解決中に友達の学習内容や考え方を参照できる。
- ・完成物ではなく、学んでいる過程を共有することで学び方が意識できる。

⑥振り返りの記述・共有

- ・文章量も確認しながら、振り返りが記述できる。
- ・友だちの振り返りも確認できる。

⑦学びをつなぐ

- ・②⑥が前単元への参照になると、単元を超えた学びのつながりが生じ、単元を超えた当該教科の見方・考え方を意識しやすくなる。

中学校第1学年
理科（生命領域）

ピーマン 	ナス 
オクラ 	バナナ 
スナップエンドウ 	キウイフルーツ 
エダマメ 	ブドウ 

野菜や果物（実）を観察して花のつくりの名残を写真に記録し、それらを比較することによって植物の共通性と多様性に気付く。

27
【協力】 岡山大学附属中学校

③ 研修パッケージを活用し、感想やディスカッションを

・解説動画 & 資料

デジタル学習基盤における「深い学び」の可能性(例)

INPUT OUTPUT

1. 人材情報 2. 経路透視 3. 出力機会 4. プロセス

このデジタル学習基盤が重要で

・関係資料

小学校第3学年

GIGAで深い学びの指導例 クラウド活用のポイント

子どもにとってのクラウド活用の代表的なメリット

参考資料等

・ワークシート

〇〇校第〇学年 教科：〇〇〇〇 「〇〇〇〇〇〇」

■単元の目標

■資質・能力が育成され「深い学び」に向かおうとしている子供の姿(第〇小単元)

【学習活動の場面】

■GIGA端末とクラウド環境の効果的な活用と指導上の工夫

① *****

【主体的・対話的で深い学びを実現する具体的な学習活動】

【導入】

【展開】

【終末】

② *****

③ *****

【資質・能力が育成され深い学びに向かおうとしている子供の姿】

【主体的・対話的で深い学びに向かおうとしている指導の例】

【学校名】 ***** 立 ***** 学校(*****県)

參考資料等

教育課程の基準等の在り方について

初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について (令和6年12月25日中央教育審議会諮問)【概要】

子供たちを取り巻くこれからの社会の状況

- 不確実性の高まり（少子化・高齢化、グローバル情勢の混迷、生成AI等デジタル技術の発展等）
→子供たちは、激しい変化が止まることがない時代を生きる
- 労働市場の流動性の高まり、マルチステージの人生モデルへの転換
→自らの人生を舵取りする力を身に付けることの重要性
- 内なるグローバル化やデジタル化の負の側面等による社会の分断の芽への指摘
→多様な他者と、当事者意識を持った対話により問題を発見・解決できる「持続可能な社会の創り手」を育てる必要性
- テクノロジーは変化に伴う困難だけでなく多様な個人の思いを具現化するチャンスも生み出す
→生産年齢人口が急減する中、あらゆる資源を総動員し、全ての子供が豊かな可能性を開花できるようにすることが不可欠

現在の学校現場の状況

- 現行学習指導要領は、「社会に開かれた教育課程」を理念に掲げ、「何を学ぶか」だけでなく、「何ができるようになるか」を明確化し、「どのように学ぶか」の重要性を強調し、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を提示
- コロナによる制約に苦しみながらも、GIGAスクール構想による1人1台端末環境も活用し、精力的な授業改善が行われてきた
- 全国学力・学習状況調査やOECDのPISA調査において地域間格差・学力格差の改善も見られている
→我が国の初等中等教育は、質の高い教師の努力と熱意に支えられ、大きな成果を上げ続けている

顕在化している課題

① 主体的に学びに向かうことができていない子供の存在

- 学ぶ意義を十分に見いだせず、主体的に学びに向かうことができていない子供の増加
- 不登校児童生徒、特別支援教育の対象となる児童生徒や外国人児童生徒、特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援の充実とともに、多様性を包摂し、可能性を開花させる教育の実現が喫緊の課題
- これらに向き合うことは、「正解主義」や「同調圧力」への偏りから脱却するとともに、民主的かつ公正な社会の基盤として学校を機能させ、分断や格差の拡大を防ぎ、共生社会を実現する観点からも重要

② 学習指導要領の理念や趣旨の浸透は道半ば

- 習得した知識を現実の事象と関連付けて理解すること、概念としての知識の習得や深い意味理解をすること、自分の考えを持ち、根拠を持って明確に説明すること、自律的に学ぶ自信がある生徒が少ないこと、等に依然として課題
- 子供の社会参画の意識、将来の夢を持つ子供の割合等についても、改善傾向も見られるものの国際的に見て低い状況

③ デジタル学習基盤の効果的な活用

- デジタル学習基盤(*)は、一人一人のよさを伸ばし、困難の克服を助ける大きな可能性を秘めているが、効果的な活用は緒に就いたばかり
- 我が国のデジタル競争力は国際比較でも低位であり、デジタル人材育成強化は喫緊の課題
- 「デジタルの力でリアルな学びを支える」との基本的な考えに立ち、バランス感覚を持って、積極的に取り組む必要

(*) GIGA スクール構想による1人1台端末やクラウド環境等のデジタル学習基盤

○ 子供たちが社会で活躍する2040年代を展望するとき、初等中等教育が果たすべき役割はこれまで以上に大きい

→これまでのよい部分を継承し、課題を乗り越え、高等教育との接続改善や国際的な潮流にも配慮しながら、新たな時代にふさわしい在り方を構築する必要

○ 教師の努力と熱意に対して過度な依存はできず、教育課程の実施に伴う負担への指摘に真摯に向き合う必要性

→令和6年8月の中央教育審議会答申に基づく教員の勤務環境整備と整合させつつ、「令和の日本型学校教育」を持続可能な形で継承・発展

※別途諮問している「多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成を加速するための方策について」に係る検討と連携



※一部抜粋

教育課程の基準等の在り方について

主な審議事項

1 質の高い、深い学びを実現し、分かりやすく使いやすい学習指導要領の在り方

- 生成AIが発展する状況の下、知識の概念としての習得や深い意味理解を促し、学ぶ意味や社会とのつながりが重要となる中、そうした授業改善に直結する学習指導要領とするための方策（特に、各教科等の中核的な概念等を中心に、目標・内容を一層構造化）
- 目標・内容の記載に表形式等を活用すること、学校種間・教科等間の関係を俯瞰しやすくすることのほか、デジタル技術を活用した工夫の在り方
- 重要な理念の関係性の整理（「主体的・対話的で深い学び」、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」、「学習の基盤となる資質・能力」等）
- デジタル学習基盤の活用を前提とした、資質・能力をよりよく育成するための各教科等の示し方
- 学習改善・授業改善に効果的な評価の観点や頻度、形成的・総括的評価の在り方（特に、「主体的に学習に取り組む態度」をはじめ観点別学習状況の把握をより豊かな評価につなげるための改善）

3 各教科等やその目標・内容の在り方

- 小中高等学校を通じた情報活用能力の抜本的向上を図る方策（生成AI等に関わる教育内容の充実、情報モラルやメディアリテラシーの育成強化を含む）
- 質の高い探究的な学びを実現するための「総合的な学習の時間」、「総合的な探究の時間」の改善の在り方（情報活用能力の育成との一体的な充実等を含む）
- 高等教育段階でデジタル・理数分野への学部転換等の取組が進む中での、初等中等教育段階における文理横断・文理融合の観点からの改善の在り方
- 生成AIの活用を含めた今後の外国語教育の在り方や、手軽に質の高い翻訳も可能となる中での外国語を学ぶ意義についての考え方
- 教育基本法、学校教育法等に加え、こども基本法の趣旨も踏まえた主体的に社会参画するための教育の改善の在り方
- 多くの教科・科目の構成の改善が行われた高等学校教育について、その一層の定着を図るとともに、職業教育を含めた今後の改善の在り方
- 特別支援学級や通級指導に係る特別の教育課程、自立活動の充実等を含む、障害のある子供の教育的ニーズに応じた特別支援教育の在り方
- 幼児教育と小学校教育との円滑な接続の改善の在り方、設置者や施設類型を問わず、幼児教育の質の向上を図る共通の方策

2 多様な子供たちを包摂する柔軟な教育課程の在り方

- 興味・関心や能力・特性に応じて子供が学びを自己調整し、教材や方法を選択できる学習環境デザインの重要性、デジタル学習基盤を前提とした新たな時代にふさわしい学びや教師の指導性の在り方
- 教師に「余白」を生み、教育の質の向上に資する可能性も含めた、子供たちの可能性が輝く柔軟な教育課程編成の促進の在り方（各種特例校制度等を活用しやすくすること、標準授業時数に係る柔軟性、学習内容の学年区分に係る弾力性、単位授業時間や年間の最低授業週数の示し方）
- 高等学校の生徒の多様性に応える柔軟な教育課程の実現のための、全日制・定時制・通信制を含めた諸制度の改善の在り方
- 不登校児童生徒や特定分野に特異な才能のある児童生徒など、各学校が編成する一つの教育課程では対応が難しい子供を包摂するシステムの構築に向けた教育課程上の特例等の在り方

4 教育課程の実施に伴う負担への指摘に真摯に向き合うことを含む、学習指導要領の趣旨の着実な実現のための方策

- 教育課程の実施に伴う過度な負担や負担感が生じにくい方策（学習指導要領や解説、教科書、入学者選抜、教師用指導書を含む）
- 現在以上に増加させないことを前提とした年間の標準総授業時数の在り方、教育課程の実施に伴う負担に留意した上での、現代的な諸課題を踏まえた様々な教育の充実の在り方
- 新たな学びにふさわしい教科書の内容や分量、デジタル教科書の在り方
- 情報技術など変化の激しい分野において、教師の負担軽減を図りつつ最新の教育内容を扱うことを可能とするための方策
- 各学校での柔軟な教育課程編成を促進し、多様な取組の展開に資する、教育委員会への支援強化、指導主事等の資質・能力の向上の在り方
- コミュニティ・スクールを含む地域や家庭との連携・協働を促進しつつ、過度な負担を生じさせずにカリキュラム・マネジメントを実質化する方策
- 学習指導要領の趣旨・内容について、保護者をはじめ社会全体と共有するとともに、学校種を超えて一人一人の教師に浸透を促す方法の在り方



※一部抜粋

基盤となる考え方

次期学習指導要領に向けた検討の基盤となる考え方

補足イメージ1-①

～あらゆる方策を活用し、三位一体で具現化～



学びをデザインする高度専門職としての教師 デジタル学習基盤をはじめとする基盤整備
「裁量的な時間」をはじめ柔軟な教育課程による余白 総合的な勤務環境整備

多様な子供たちの「深い学び」を確かなものに

生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、
自らの人生を舵取りすることができる 民主的で持続可能な社会の創り手 をみんなで育む



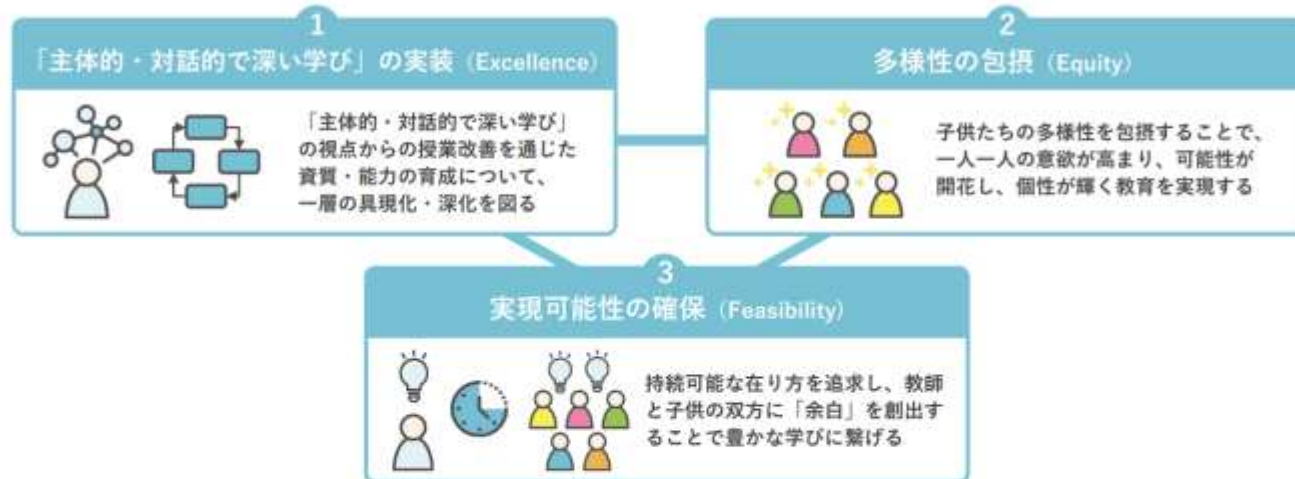
※一部抜粋

学習指導要領改訂の大きな方向性

1. 学習指導要領改訂の大きな方向性とは？

次期学習指導要領に向けた基本的な考え方

～あらゆる方策を活用し、三位一体で具現化～



学びをデザインする高度専門職としての教師
「裁量的な時間」をはじめ柔軟な教育課程による余白

デジタル学習基盤をはじめとする基盤整備
総合的な勤務環境整備

多様な子供たちの「深い学び」を確かなものに



生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、自らの人生を舵取りすることができる民主的で持続可能な社会の創り手をみんなで育む



2



※一部抜粋

現行学習指導要領の資質・能力の三つの柱

育成すべき資質・能力の三つの柱

学びに向かう力
人間性等

どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか

「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を
総合的にとらえて構造化

何を理解しているか
何ができるか

知識・技能

理解していること・できる
ことをどう使うか

思考力・判断力・表現力等



※一部抜粋

個別最適な学びと協働的な学び

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、

誰一人取り残さない形で、

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる



主体的・対話的で
深い学びの実現

授業改善



全ての子供に
これからの社会を生きる
資質・能力を育む

多様な子供を誰一人
取り残さない視点

個別最適な学びと協働的な学び
一体的充実



※一部抜粋

サポートマガジン『みるみる』

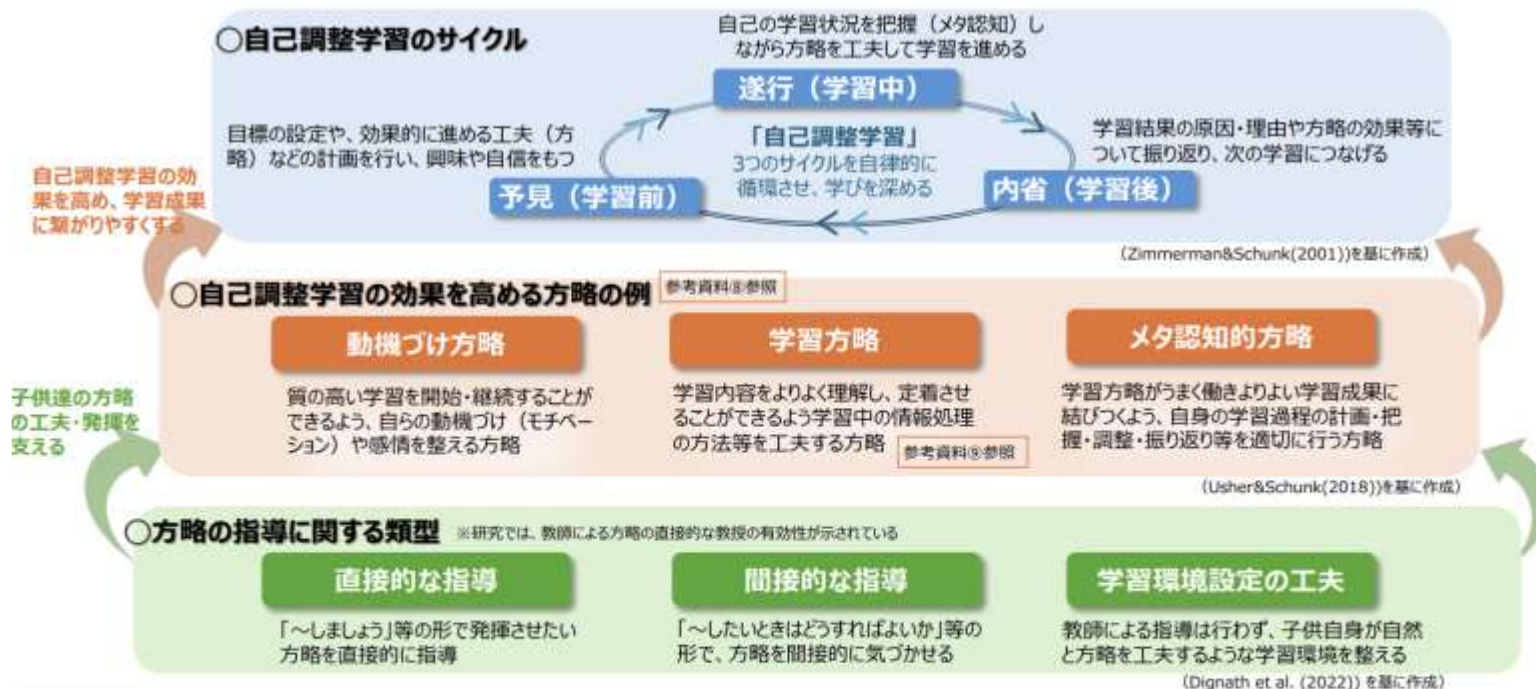
子供一人一人が個別に学ぶ場面や、協働する場面が準備されていたとしても、子供たちの「主体的・対話的で深い学び」につながっていなければ、本末転倒になってしまいます。 ※一部抜粋



自己調整学習

◆自己調整学習のサイクルや、それを促進する要素等に関する研究上の知見

参考資料①



◆子供が自ら学習を調整しながら学びを進めるための学校現場の実践例 (単元内自由進度学習を含む、自治体や学校の事例等を基に監修)

参考資料④参照

- | | | |
|---|--|---|
| <p>単元や題材の設計</p> <ul style="list-style-type: none"> 子供達が意欲的に取り組むことができ、全ての子供が育成したい資質・能力を育むことができるような単元や題材の設計 単元全体の目標や内容、流れを子どもと共有することで学習の見通しの明確化 個別・協働・一斉といった学習活動の効果的な配置 | <p>多様な学習材料の提供
定場かけの準備</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもが自分の力で学ぶことができ、自らにとって学びやすいものを選択できる多様な材料の提供 子どもの特性や学習スタイルに応じて選択できる多様な学習材料の提供 学習の見通しを持つことや学習の進捗状況の把握、学習の振り返りがしやすい学習材の開発 等 | <p>学習環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 安心して学習に取り組める空間づくり デジタル学習基盤も活用しながら、生徒間や外部との協働を通じた学びの深まりや、生徒自身が学習に必要な情報に必要なタイミングでのアクセスを可能とする 環境づくり 等 |
|---|--|---|



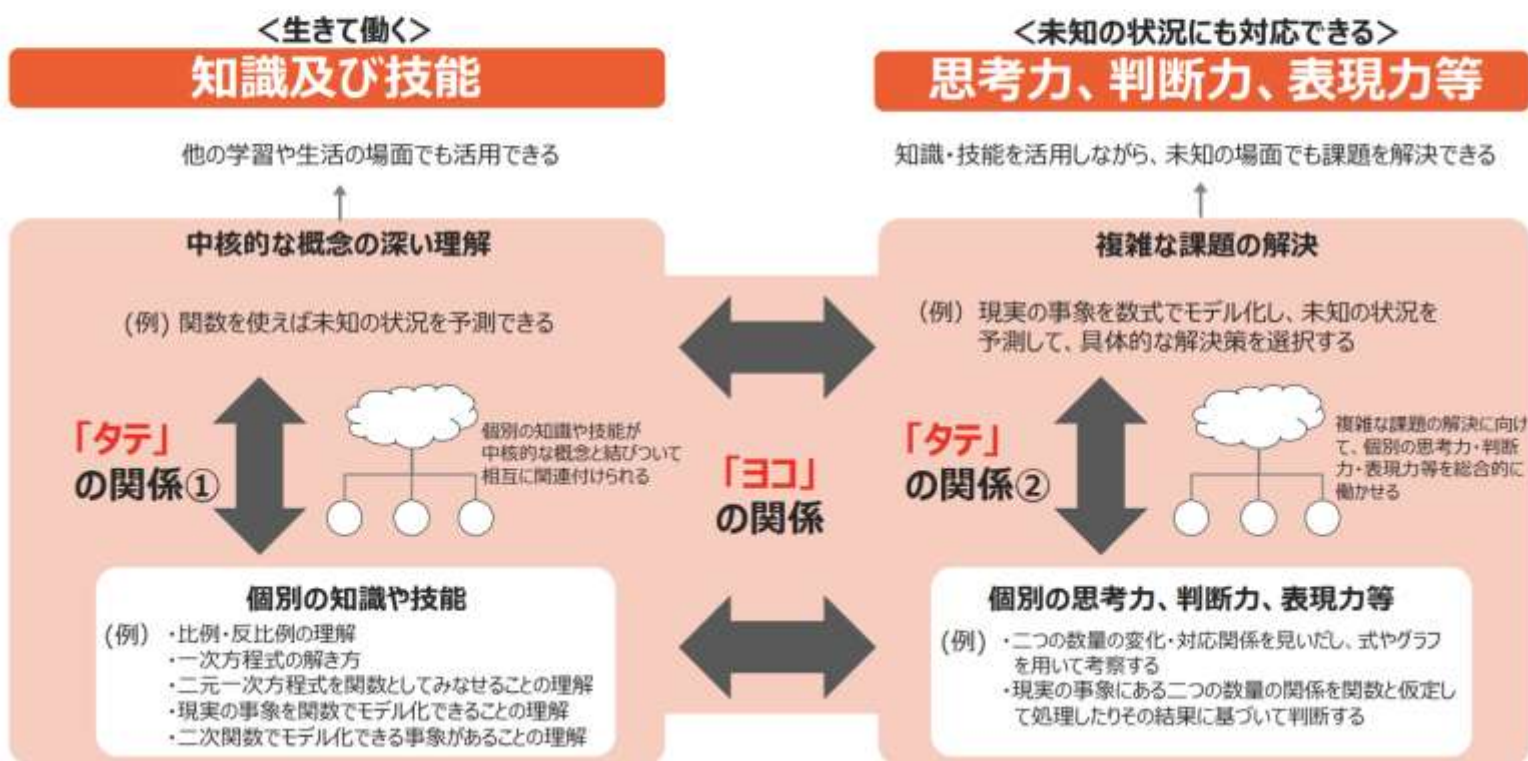
※一部抜粋

「深い学び」の具現化

補足イメージ2-①

「タテ・ヨコの関係」の可視化による「深い学び」の具現化

- 知識の理解も、それが生きて働くように深く学ぶことが重要（タテの関係①）。思考力・判断力・表現力等も、社会や生活で直面する未知の状況でも課題解決に繋げていけるよう「質」を高めることが重要（タテの関係②）
 - ある程度の知識・技能なしに思考・判断・表現することは難しいし、思考・判断・表現を伴う学習活動なしに、知識の深い理解と技能の確かな定着は難しい（ヨコの関係）
- こうした「タテ・ヨコの関係」を学習指導要領上で可視化することにより、資質・能力の関係性の理解や、それらを一体的に育成するための教師の単元づくりを助け、「深い学び」を授業で具現化しやすくする



※一部抜粋

「深い学び」の具現化

学習指導要領の構造化・表形式化イメージ (中学校数学「数と式」の例)

補足イメージ2-②

資質・能力の一体的育成の可視化（「ヨコ」の関係の可視化）

知識及び技能の系列

思考力、判断力、表現力等の系列

知とスキルを結集・統合して、知識・技能を総合的に使いこなす力。実践志向のプロセスを追記。

内容区分の中核的な概念理解へと至るために、個別の知識や技能といった資質・能力が結集・統合される。

	<p>中核的な概念の深い理解 (併称)</p> <p>この内容のまとまりを通じて理解して欲しい主要な概念等を示す</p> <p>例：数の範囲を拡張することにより、より広範な事象を一般的かつ明確に表し、計算が能率的にできるようになることを理解する。</p>	<p>複雑な課題の解決 (併称)</p> <p>この内容のまとまりにおける知識・技能を総合的に使いこなして、思考・判断・表現できる力を示す</p> <p>例：数の範囲を拡張し、それらの新たな数を用いて、日常生活や社会におけるより広範な問題を解決することができる。</p>			
1年相当	<p>個別の知識及び技能</p> <p>教科の主要な概念の深い理解を獲得し、思考・判断・表現する上で必要な要素となる知識・技能を示す</p> <table border="1"> <tr> <td>例：正の数と負の数</td> <td>例：正の数と負の数の四則計算</td> <td>例：具体的な場面で正の数と負の数を用いて表したり処理したりすること</td> </tr> </table>	例：正の数と負の数	例：正の数と負の数の四則計算	例：具体的な場面で正の数と負の数を用いて表したり処理したりすること	<p>個別の思考力、判断力、表現力等</p> <p>複雑な課題の解決をする上で必要な要素となる思考力・判断力・表現力等を示す。</p> <p>例：既に学習した計算の方法と関連付けて、拡張した数について四則計算の方法を考察し、表現する。</p> <p>例：様々な事象における問題解決の場面において、新たに学んだ数を活用して問題を解決することができる。</p>
例：正の数と負の数	例：正の数と負の数の四則計算	例：具体的な場面で正の数と負の数を用いて表したり処理したりすること			
3年相当	<table border="1"> <tr> <td>例：数の平方根</td> <td>例：数の平方根を含む簡単な式の計算</td> <td>例：具体的な場面で数の平方根を用いて表したり処理したりすること</td> </tr> </table>	例：数の平方根	例：数の平方根を含む簡単な式の計算	例：具体的な場面で数の平方根を用いて表したり処理したりすること	
例：数の平方根	例：数の平方根を含む簡単な式の計算	例：具体的な場面で数の平方根を用いて表したり処理したりすること			
(内容の取扱い)	<p>内容の取扱い</p> <p>各教科の内容を学習する上での取扱い上の留意点等を示す</p>				

資質・能力の柱ごとの「深まり」の可視化（「タテ」の関係の可視化）



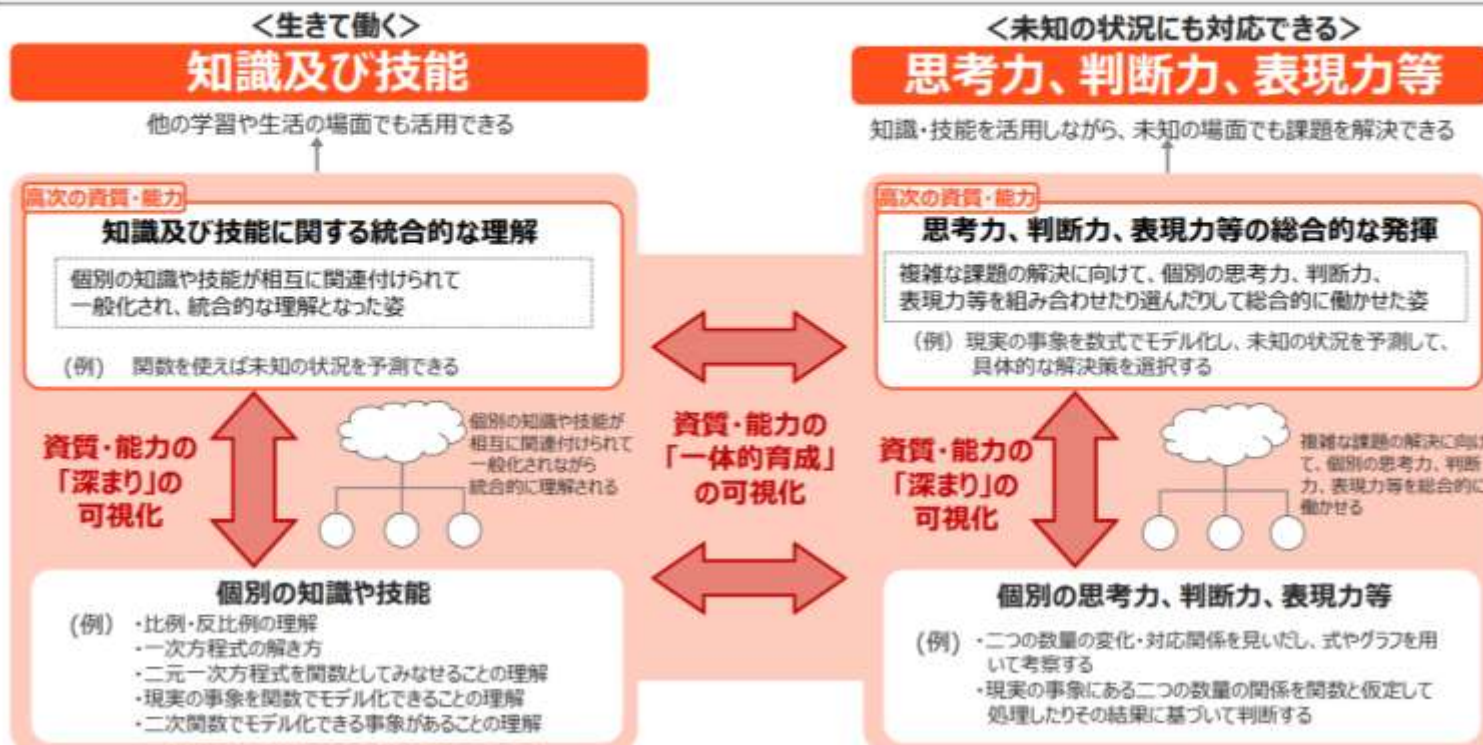
※一部抜粋

※本イメージは現行学習指導要領を基に構造化・表形式化のイメージとして作成したものであり、実際の次期学習指導要領の構造化案は、今後、総則・評価特別部会や各WGで具体的に検討するもの。本イメージは、あくまで構造化や表形式化の意義を分かりやすくするための一例であることに留意
 ※令和7年2月17日 第2回教育課程企画特別部会 石井委員提出資料を基に文部科学省作成

「深い学び」の具現化

「資質・能力の深まり」と「資質・能力の一体的育成」の可視化による「深い学び」の具現化

- 知識の理解も、それが生きて働くように深く学ぶことが重要。思考力、判断力、表現力等も、社会や生活で直面する未知の状況でも課題解決に繋げていけるよう「質」を高めることが重要（資質・能力の「深まり」）
 - ある程度の知識・技能なしに思考・判断・表現することは難しいし、思考・判断・表現を伴う学習活動なしに、知識の深い理解と技能の確かな定着は難しい（資質・能力の「一体的育成」）
- ⇒こうした「資質・能力の深まり」と「資質・能力の一体的育成」を学習指導要領上で可視化することにより、資質・能力の関係性の理解や、それらを一体的に育成するための教師の単元づくりを助け、「深い学び」を授業で具現化しやすくする



※ 論点整理における「中核的な概念の深い理解」「複雑な課題の解決」について、総則・評価特別部会における議論を踏まえ、「知識及び技能に関する統合的な理解」「思考力、判断力、表現力等の総合的な理解」(総称して「高次の資質・能力」)に更新して記載
 ※ 「高次の資質・能力」は、個別の資質・能力が深まることで至る、「統合的な理解」や「総合的な発揮」を暗示するものであり、個別の資質・能力との関係で重要性の軽重を意味するものではない。



※一部抜粋

「深い学び」を実現するための工夫

2. 「深い学び」を実現するための分かりやすい学習指導要領に向けた工夫とは？

高次の資質・能力をもとにした一層の構造化・表形式化・デジタル化



子供たちに育む資質・能力が分かりやすく、日々の授業づくりの際に教師一人一人が使いやすい学習指導要領とするため、「構造化・表形式化・デジタル化」を一体的に進め、「深い学び」を授業で具現化しやすくする。

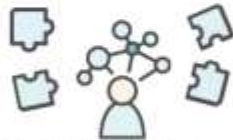
／生きて働く／
知識及び技能

他の学習や生活の場面でも活用できる

高次の資質・能力

知識及び技能に関する統合的な理解

個別の知識や技能が相互に関連付けられて一般化され、統合的な理解となった姿



(例) 関数を使えば未知の状況を予測できる

社会や生活で直面する未知の状況でも課題解決に繋げていけるよう「質」を高めることが重要

資質・能力の「深まり」の可視化

個別の知識や技能

知識① 知識② 知識③ 知識④



(例) 比例・反比例の理解 / 1次方程式の解き方 等

／未知の状況にも対応できる／
思考力、判断力、表現力等

知識・技能を活用しながら、未知の場面でも課題を解決できる

高次の資質・能力

思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮

複雑な課題の解決に向けて、個別の思考力、判断力、表現力等を組み合わせたり選んだりして総合的に働かせた姿



(例) 現実の事象を数式でモデル化し、未知の状況を予測して、具体的な解決策を選択する

資質・能力の「深まり」の可視化

個別の思考力、判断力、表現力等



(例) 二つの数量の変化・対応関係を見つけて式やグラフを用いて考察する等

ある程度の知識・技能なしに思考・判断・表現することは難しいし、思考・判断・表現を伴う学習活動なしに知識の深い理解と技能の確かな定着は難しい

資質・能力の「一体的育成」の可視化

※論点整理における「中核的な概念の深い理解」「複雑な課題の解決」について、個別・評価特別部会における議論を踏まえ、「知識及び技能に関する統合的な理解」「思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮」(総称して「高次の資質・能力」)に更新して記載
※「高次の資質・能力」は、個別の資質・能力が深まることによる、「統合的な理解」や「総合的な発揮」を用い示すものであり、個別の資質・能力との関係で重要性の軽重を意味するものではない。

4



※一部抜粋

学習の基盤となる資質・能力

検討項目⑤ 学習の基盤となる資質・能力

3. 総則・評価特別部会における検討事項(補足イメージ①)

- 情報活用能力・言語能力として育成すべき資質・能力の在り方については、専門性を有する委員により構成される各WGにおける議論も踏まえて総則に位置付けることとしてはどうか。
その際、総則の肥大化を防ぐため、学習指導要領本体においては「学習の基盤となる資質・能力」の内容について具体の記載はせず、総則解説において具体的を記載を行うという、現在の形式を引き続き維持してはどうか。
- その上で、総則・評価特別部会においては、「学習の基盤となる資質・能力」が教育課程全体に果たす役割や、言語能力・情報活用能力の性質と関係性のシンプルで分かりやすい示し方を検討してはどうか。

(1)「各教科等で育む資質・能力」と、「学習の基盤となる資質能力」の関係について

- 「学習の基盤となる資質・能力」は、日々の学習や生涯にわたる学びを基盤として支える資質・能力であるが、各教科等の文脈の中で、目的に応じて文章を読んだり書いたりする、端末を用いて学習に必要な情報をまとめるといった具体的な文脈を伴わない形で身に付けることには限界がある(※)。

(※) 例えば情報活用能力育成の充実に関する議論においては、こうした点も踏まえ、小学校段階では探究的な学習の過程の中で情報技術の活用を学び、中学校段階においても情報・技術科(仮称)という形で生産技術と関連を持たせながら情報について学習を進める方向で議論されている

また、各教科等とは別にこれらの資質・能力のみを育む時間を設けていくことは多くの学校にとって現実的ではない。

このため、国語科や総合「情報の領域」等を中心としつつも、各教科等の学習内容全体を通じて育成しつつ、相互の連携を図ることが基本である旨を総則解説等において明確にしてはどうか。

- その上で、系統的に内容が組織・配列されており学習内容の体系的な習得を図りやすい各教科等の資質・能力とは異なり、「学習の基盤となる資質・能力」は各教科等に学習内容が散在していることで、学習内容を相互に結びつけて一体的に理解することが難しい側面がある。
このため、散在する学習内容を通じて育成を目指す資質・能力の全体像を教科等を超えて整理し、各学校がカリキュラム・マネジメントを通じて教育課程全体での体系的な育成を図ることができるようにすることが重要であり、このことを「学習の基盤となる資質能力」を総則に示す事の意義としてあらためて整理してはどうか。



※一部抜粋

言語能力

補足イメージ①

「学習の基盤となる資質・能力」の相互の関係等について

各教科等において育む資質・能力

元となる学問体系等を踏まえて系統的に内容が組織・配列されていることで、学習内容の体系的な習得を図るとともに、学習内容を相互に結びつけて理解しやすくなるなど、資質・能力の深まりを効果的に実現する。



学習の基盤となる資質・能力

個々の教科等に収まらず、日々の学習や生涯にわたる学びを基盤として支える資質・能力は、各教科等の内容を通じて育成を図ることとなる一方、育成する資質・能力の全体像を教科等を超えて整理することで、各学校でのカリキュラム・マネジメントを通じた教育課程全体での体系的な育成を担保する。



※一部抜粋

スタディーエックス スタイル

StuDX Style

デジタル学習基盤で加速する深い学び



StuDX style (スタディーエックス スタイル)
<https://www.mext.go.jp/studxstyle/>

ブチ学習会はコチラ

お困り相談はコチラ

研修支援はコチラ

新着情報

○新着情報○

- 2025.5.23 > (特集) プロジェクトH～新たな学びのスタート
- 2025.5.20 > (特集) すべての生徒が学びを深める授業
- 2025.5.16 > (特集) GIGAスクール構想×探究学習②
- 2025.5.7 > (特集) 広く理念を共有し、創造的に実践

小学校



中学校



「GIGA×深い学び」 (全校種・全教科等)

デジタル学習基盤で「深い学び」が 実現する学習指導の例